

雪ん子ブログの目次

2014,2015 年度項目別目次 雪ん子ブログ、2014 年度(4.1-3.31)、今年度 174 本、No. 451-624

2015 年度 75 本、No. 625-70

政治、行政、環境・社会資本、街づくり、経済・商業、報道、教育・報道、専門家、学術、技術、防災、原発、文化・歴史、社会、組織、人間、市民、若者、子ども、通念、意識、思考、コミュニケーション、生活、仕事、連携、スポーツ・体、娯楽

◆ 1. 政治

- 15.03.21、街づくりに熱心な方が政権政党の政治家になる理由は、618
- 15.03.10、地方では政党色なく市民サイドの政治家ですが偉くなると政党活動に、610
- 15.03.06、民主主義を理解しない一部の政治家、議論を拒むレベルの低さ、605
- 15.03.05、政治家を教育するには国民しかいない、604
- 15.03.04、地域づくりで頑張ってる方のいくつ先は政治家もあり、603
- 15.03.02、年金制度は積み立て方式にすべし、601
- 15.01.27、政治家云々のまえに選んだのが国民という理屈は正当なのか、569
- 15.01.20、丁寧な説明と理解を求めるとはご都合主義の便法、565
- 15.01.10、政治家の応援演説はどんな効用があるのか、地方政治の場合、559
- 15.01.09、若い政治家は組織の論理に染まらず住民視点で、558
- 14.09.30、市町村議員の政治への思いが市民まであまり伝わってこない、512
- 14.09.01 集团的自衛権の閣議決定に思う、国民に考えさせない風潮とマスコミの矮小化の視点、507
- 14.08.26 元中央官僚で国民視点を貫く方がおられた、集团的自衛権行使容認反対、506
- 14.06.25 議会における女性蔑視ヤジは失言でなく本音、人格尊重は何処に遅れた社会、492
- 14.06.24 失言があろうがなかろうが何でもやってしまう政権と業界、原発も、491
- 14.06.06 憲法論議に思う、475
- 14.05.27 政治家にとって最初の意識について、専門家の発想か市民側の発想か、469
- 14.04.24 一部の政治家および経済人にみられる金銭感覚の麻痺について、453

◆ 1. 政治

- 16.03.21 政治不信は一部の野党も加担、691
- 16.03.08 独裁を止めるのも民主主義の役目、680
- 16.02.22 議会質疑応答について、667
- 16.02.14 政治には金がつきものか、また事件か、660
- 16.02.12 説明責任の言葉多用だがその実は、659
- 16.02.03 知る権利や環境権で憲法改定は必要か、652
- 16.01.22 民意を国政に反映させること困難なり、新国立競技場が「インコパ」と安保法制にみる、642
- 16.01.20 自治体の議会質疑応答に市民の声はどの程度反映か、640
- 16.01.12 地方創生といえども中央は地方に居丈高、638
- 16.01.11 地方での自治体の政治的な様子と観光や活動について懇談、637
- 16.01.04 議員や行政や市民が大いに議論することが必要、631

◆ 1'. 経済

- 15.03.10、国の雇用創出事業で効果がどのくらいあるのか、609
- 15.02.05、地方の時代？、新幹線開業を例に地方は日本の一部という枠を越えられず、578
- 14.12.14、里山資本主義を良くも悪くも語ってみる、540

◆ 2. 社会

- 14.10.08、市民啓発の講演会に参加した市民は後にある懇親会に締め出だされ、514
- 15.03.12、種々評価を自前よりも他者に委ねることの根幹には、611
- 15.03.03、新しい価値創造を目指すベーシックインカムについて、602
- 15.02.16、あちこちで似たようなお祭り等のイベントが目白押し、これを何と見る、588
- 15.01.19、会議の代わりとしてもメールでのやりとりは議事や発言にあらず、564
- 14.12.27、選択的夫婦別姓制度の根底には、553
- 14.12.22、高度技術社会だからこそ生産者と消費者の間に相互信頼を、548

- 14. 12. 18、大人は何を持って大人か、子どもは何を持って子供か、544
- 14. 12. 17、外国起源のお祭りは日本で勝手に変質させ馬鹿騒ぎか、543
- 14. 12. 09、子どもの施設は迷惑施設なのか、子どもの声は騒音か、536
- 14. 05. 15 分業社会での川上と川下における仕事の正当な評価とは、466
- 14. 05. 13 民主的団体だからといって構成員が民主的であるとは限らないことが散見される、464
- 14. 05. 07 団体運営の多様性ってどんなこと、派閥じゃないよね、460
- 14. 12. 12、ご当地観光もオンリーワンで個性を生かし相互尊重で、539
- 14. 12. 11、観光のもともとの意味は、538
- 14. 12. 10、日本人の旅行好きはやはり感性や信仰心がルーツ、537
- 14. 06. 14 観光プロモートの方々にはヒューマニテイの考えがまるまないのでは、483
- 14. 06. 09 観光は差別化という偏狭な考えが横行している、478
- 14. 06. 17 スポーツ施設のコートやピッチの周りの電光掲示板設置に見る世の中の良識の鈍化、486

◆ 2. 社会

- 16. 02. 24 最近の民営化・民間委託を憂う、669
- 16. 02. 19 もうひとつの日常、665
- 16. 02. 16 精神性は社会や地域で育まれるといたい、662
- 16. 02. 08 仕事も家庭も同じ次元という考えを通しにくい、Uターン考、655
- 16. 01. 25 将来をもっと語るには若さが必要、644

◆ 3. 行政

- 14. 12. 29、行政の各委員会では公開が原則なのに市民や市民から選出の議員すら傍聴させずとは、555
- 14. 06. 16 行政が婚活に力を入れているけれども、485
- 14. 06. 04 行政が開催する各種委員会の人事に市民の参加を、473
- 14. 05. 19 地方の行政では各種専門委員会の委員人選に理念無し、467

◆ 3. 行政

- 16. 02. 04 専門的な施策について行政システムと行政職員の様相、653
- 15. 12. 27 役人の了見の狭さが皆さんには不快、625

◆ 4. 組織

- 15. 02. 01、個人商店的NPOではメンバーはワンマンな方の手伝い活動のみ、574
- 14. 12. 20、小さな組織ではどうしても個人商店風な運営になる、546
- 14. 12. 19、非自発的離職者のための支援制度はお寒い限りのよう、545

◆ 4. 組織

- 16. 03. 18 市民レベルの普通の同好会について組織論的検討、689
- 16. 03. 17 ある学術団体の組織運営について、688
- 16. 03. 16 多数の方々がかかわる議論について、687
- 16. 03. 15 地域活動で組織継続のための役員探しが本業では、686
- 16. 03. 14 地域の公的施設の長になると地域が見えることあり、685
- 16. 03. 01 団体や企業ではえらくなることの意味は、673

◆ 5. 企業

- 15. 02. 12、業界のモラル遵守も二極化なのでしょうか、584
- 15. 02. 11、企業間をまたぐ客主導のオプションによる製品化の試みを、583
- 14. 11. 19、水俣病裁判でチツソ側についた工学専門家には批判精神は無いのであろうか、530
- 14. 05. 08 関連子会社の生え抜きは一般に元気がない、461
- 14. 12. 16、小路を跨ぐ橋で橋床の排水を市民の頭に振り掛ける設計をした低レベル技術者がいる、542
- 14. 11. 08、ITでの議論はやめたほうがいい、523

◆ 6. 農業

- 15. 03. 20、市民の農業によせる思い、米によせる思い、617
- 15. 03. 16、そもそも農業とは手間隙かけて育てること、616
- 15. 03. 18、農薬と肥料、大量使用は食の安心安全とどうバランスするのか、615

15. 03. 17, 工業を優先し農業をつぶすように政治が動いているように思えるが、614
15. 03. 08, 米余りといっても米を作らざるを得ない日本の農業、607
15. 03. 07, 中山間で意欲的な農業で頑張る方々、606
15. 02. 15, 作物は伸び伸びと育ててやって欲しい、587
15. 01. 28, 農作物を工場で生産する技術運用にひとこと、570
14. 10. 09, 自然農業を営んでいる方々は現代社会の一極に、515
- ◆ 6. 農業
15. 12. 28 自然農業が脚光、ならば自然牧畜も盛んに、626
- ◆ 7. 原発
15. 02. 21, 福島県のある分野の報告書について原発事故の捉え方に関してパブコメする、593
14. 11. 08, 原発再稼働を自治体首長と議会が決定し、国民に危険負担を強いる、524
14. 08. 25 某電力会社の会見、淡々と進行、505
14. 04. 27 原発専門家の一部には客観を装って問題の本質をはぐらかす方がいる、454
- ◆ 7. 原発
16. 01. 21 原発汚染水の垂れ流しがいつまで続くのか、641
16. 01. 05 電力小売り自由化により安価電力生産として原発再稼働か、632
- ◆ 8. 報道
14. 12. 04, 地方報道番組についてもっとローカル色があるといい、532
14. 08. 23 最近の報道、自ら報道の義務を返上するかのよう、503
- ◆ 8. 報道
15. 12. 30 番組モニターは放送局の姿勢をもチェックしたい、628
- ◆ 9. 環境
14. 10. 21, 県民全体で支える森づくりの推進について、519
14. 08. 24 ジェオパーク構想はもっと慎重に幅広く議論を、504
14. 07. 04 自然体験活動の発展には自然と人間が一体という自然観をもっと身近に、501
14. 05. 03 最近のグリーンツーリズムは体験のみで終わっているのでは、459
- ◆ 9. 環境
16. 03. 10 自然愛好の意義を探る、682
16. 03. 06 地図は道記録ではなく地の理の集積、678
16. 03. 06 プラスティックのゴミを抜本的に処理すべし、677
16. 02. 01 自然保護は生態系保護として考える、650
- ◆ 10. 教育
15. 03. 22, 専門教育は専門性が縦割り構成とか(市民とはかけ離れた)独特の様相を呈しているが、619
15. 02. 02, 教育や研究の職場において老害をおしつけられては、575
15. 01. 13, 技術系団体における教育系の委員会のあるべき姿とは、560
14. 12. 28, 子どもには環境変化にも対応できる能力と体力を養うべし、安易な小中学校統廃合に疑問、554
14. 11. 17, 学生を見る教員側の姿勢に効率化に伴う誤りを散見、528
14. 11. 12, 中学ショックと言って騒ぎ立てる必要性があるのか、526
14. 10. 31, 公教育の公とは何か、また誰のものか、教育を見直す、521
14. 09. 02 教育において資格取得一辺倒はいかがなものか、508
14. 05. 26 なりふり構わぬ大学の学生募集、工業高校へ、468
- ◆ 10. 教育
16. 03. 28 教育ママはいまだに健在、有名大学入学がそんなに魅力的なのか、697
16. 03. 09 学校の教師が安易に精神障害などと発言するのは問題、681
16. 02. 09 生涯学習は花盛り、656
16. 02. 05 人はなぜ学ぶ、若者とシルバーに着目して、654
- ◆ 10'. 研究
15. 01. 31, 研究成果は誰のもの、背後には個人よりも組織の利益が優先か、573
14. 12. 23, S T A P細胞の騒動は一体何であったのか、549
14. 10. 10, LED 研究者のノーベル物理学賞受賞の意義とは、516
14. 09. 08 自主性・創造性の乏しい環境下では教育者研究者も無縁ならず、卒論・修論などにみる、510

- 14. 07. 02 研究の熾烈な競争、アイデア盗用や成果の強奪ありか、499
- 14. 07. 01 若手研究者の心意気をみる、498
- 14. 06. 30 小保方さんにより結果的に暴かれた研究分野の成果主義の顛末、497
- 14. 06. 03 小保方氏問題を端緒にしたコピペとプレゼンの功罪を問う、472
- ◆ 10'. 専門家、学協会
- 16. 03. 13 学協会でも会員サービスのあり方として執行部や大会を身近に、684
- 16. 03. 11 学協会でも派閥有り、683
- 16. 03. 04 若い研究者の芽を伸ばすのも摘むのも上の方次第か、676
- 16. 03. 03 卒論や修論の著作権は誰のもの、675
- 16. 03. 02 学協会でも傘下の委員会が機能しないこともある、674
- 16. 02. 18 講習会にのぞむ講師と聴衆の姿勢、664
- 16. 01. 30 古民家保存について地域専門家の結集でのぞむ、648
- 16. 01. 06 講演会の司会者には場を盛り上げる配慮が必要、633
- 16. 01. 02 専門に関する講演会にも感動や共感があってもいいが、630
- 15. 12. 31 スキル中心の講習会や勉強会でも人間性の視点を、629
- 16. 03. 28 学協会で会誌の刊行がいつも遅れぎみ、気の緩みか、698
- ◆ 10'. 専門家
- 15. 03. 26、やりたい仕事があれば自分から名乗らないとかつさわられる、623
- 14. 06. 20 専門家として市民への知的サービスを行ってここ十数年の道、489
- 14. 06. 02 反対運動における専門家の役割、471
- 14. 04. 23 社会的責任を問われている企業において技術者は黙々と働けばそれでいいのか、原発、452
- ◆ 12. 学術
- 15. 03. 25、学術団体だからこそ大所高所の教育論議を、連携とはそのことでは、622
- 15. 02. 19、大学教員には商売力や政治力ではなく学府人としての良識博識見識が一層求められる、591
- 15. 01. 17、学術がもっと政治の次元に関与してもいいのでは、563
- 14. 12. 06、大学学長選出に大学構成員の選挙ということが分からない教員がいた、534
- 14. 06. 19 学会の役割とは何か、488
- 14. 06. 08 学協会の中立性とは無正義・無倫理のことなのであろうか、477
- ◆ 11. 技術
- 16. 03. 19 建築系の方は何にでも興味有だが、他の分野の方がかすんで見え困る、690
- 16. 02. 27 技術や倫理は人間愛に基づいて欲しい、670
- ◆ 12. .学術
- 16. 02. 17 学術にける政治性とは、高速道路建設反対論文より、663
- 16. 01. 28 学際やタスクフォースの学術領域のあり方について、646
- ◆ 13. .防災
- 14. 10. 16、復興支援、街や事業所といった身近なところからコンサルティングで、518
- 14. 10. 15、東日本大震災被災地の復興支援について思う、517
- ◆ 14. .文化、歴史
- 15. 02. 03、古さの良さを「ひなびた」と表現するのは現代物質文明の価値観によるもの、576
- 14. 06. 28 住まい文化の育成がピンチ、貧困な住まいが感性を狂わせているのでは、495
- 15. 03. 24、郷土史の研究アプローチには歪みがあることあり、621
- 15. 02. 25、歴史と文化の街づくり、たまには朝ドラの歴史ドラマをみるもよし、595
- ◆ 14. .文化、歴史
- 16. 03. 07 歴史ファンとアマチュア歴史家の様相、679
- 16. 02. 02 歴史を無視するのは問題の本質への立ち入りを避けるためか、651
- 16. 02. 15 地域における文化財について、661
- 16. 01. 26 田舎へ御移住促進というまえに住まう文化の充実を、645
- 16. 03. 27 童話は時代とともに変わっていく、696
- ◆ 15、講演会
- 15. 02. 18、あちこちで似たような講演会が目白押し、これを何とみる、590

15. 01. 26、実務系団体の講演会ではシルバーな話でも若者視点で参加者・講演者ともに語り合うべし、568
15. 01. 22、参加型の講演会ではプロジェクトを使うと返って自由さが少ないような気がします、567
15. 01. 14、地域のためのセミナーや講演会、蓋を開ければ地域外の方々がほとんど、561
15. 01. 08、奥の浅い講演をして質問には答えられず低レベルな方の講演会、557
14. 11. 10、講演における質疑応答の質問者持ち時間は誰のものか、525
14. 05. 14 熱い方々が大勢参加している講演会では運営について一工夫を、465
- ◆ 15'. 勉強
15. 02. 17、狭い地域でも似たような勉強会が目白押しだが、すべて繋がっている、589
15. 01. 15、勉強しない極一部の職人さん、562
14. 12. 15、原稿校正で思い込みで読んでしまうために誤字脱字が発見できず、541
14. 12. 08、読書への心意気は年とともに変わっていくのが分かる、535
14. 12. 01、朝活がどこの地域でも大盛況なのは若者が自宅と職場の往復に飽き足らないから、531
14. 10. 30、朝の勉強会が若者に受けている、520
14. 09. 11 地域における生涯学習にたずさわる道を歩んで、511
- ◆ 16. 意識
15. 02. 28、喧嘩についてはつまらぬ次元を超えて人間の良識に訴えて収束は可能、599
15. 02. 13、人のための行為には見返りはなく、また人から授かるよりも自分で探し出すもの、585
15. 02. 10、自分の生き方を考えるために心理学は必要か、582
15. 01. 30、挨拶をしない風潮があるが、572
14. 12. 21、目標を持って仕事をするときの姿勢について、547
14. 11. 18、人の行く手をじゃまする心理、529
14. 06. 11 無駄なことをしない方って端から見るとすごく消極的にみえますね、480
14. 06. 10 日本人の自然観は最近流行の里山でなく対象を広げて山にあるというべきなのではないか、479
- ◆ 16. 意識
16. 03. 24 顔の表情は目から、694
16. 01. 23 田舎を馬鹿にする優越感の源は何か、643
- ◆ 17. 芸術、作品
14. 08. 20 つれづれなる物書きの節目を超えて、502
14. 06. 07 生々流転いについて良寛さんの句から、476
- ◆ 18. 街づくり
15. 03. 23、元気な町とさびしい町との根本的な差異はどこにあるのか、620
15. 03. 16、大きな市との合併を期待している市町村では活性化の意気込みが低い、613
15. 03. 09、自分の郷土が一番、そんな競い合いは意味ありか、608
15. 03. 01、地元のための企画といっても参加者数を確保とかやっただけという本末転倒もままある、600
15. 02. 27、街づくりも山登りと一緒、遅い人にペースをあわせる、598
15. 02. 23、街づくりではもめること多し、それを低次元ではなく街づくり理念に照らして解決あり、594
15. 02. 06、街の活性化事業にて若者のコンサルやプロモが参入で成果を主張、579
14. 12. 30、街づくりは携わる方々の意識によってなされるもの、556
14. 09. 05 シャッター通りをまずシャッターを撤去して元の居住通りに戻しませんか、509
14. 06. 15 地域のためにと言っただけの街づくりシンポジウムがあった、484
14. 06. 12 街づくりに熱心な方があまりにも熱心すぎてうまくいかない、481
14. 05. 12 街づくりはまず自分らの住む街から考えたい、463
14. 05. 09 空家対策、街壊しにつながらないように、462
14. 05. 02 街づくり講演会で講師が資料やスライドを使い回ししていることもあり、458
- ◆ 18. 街づくり
16. 03. 25 地域おこし協力隊はもっと住民の中に入って活動すべし、695
16. 03. 22 街づくりは綺麗にしよう心意気から、692
16. 02. 29 田舎に都会人を移住定住願うもいいが田舎に連携とネットワークを、672
16. 02. 23 街おこし・街づくりに関する若い方のアプローチについて、668
16. 01. 10 地方における街づくりや運動・実践についての懇談、636
16. 01. 08 ワークショップやアクティブ系では「何のためのという視点」が霞んでいる、635

◆ 19. 地域

15. 02. 09、町内会行事といえども論議の前提は町内の皆さん全員、この観点が無いこと多し、581

14. 12. 05、地域で観光の委員会における委員選出も有力者中心ですね、533

◆ 20. ボランティア

15. 03. 13、ボランティア活動でお山の大将も客観的視野に立っておられれば魅力も増す、612

15. 02. 26、ボランティアの方、自分を差しおいても人のため頑張る、597

15. 01. 29、個人資格でボランティアしても勤務先事業者が邪魔をする、571

14. 10. 04、ボランティアの方はボランティア以外では行動がぞんざいなことあり、513

14. 06. 29 ボランティアの捉え方、受ける側とする側の心意気、496

14. 06. 18 ボランティア団体の連携について本質をみる、487

14. 05. 30 ボランティアの団体だから人を大事にするとは限らない、470

14. 04. 29 地方の活気やボランティアについて仕事一本の都会の方の見方、455

◆ 21. 生活

15. 02. 08、ウォッシュレットトイレは完全に定着、公衆トイレは立ち遅れ、トイレ事情、580

15. 02. 04、住宅リニューアルにむけて便利さをアピール、577

14. 12. 25、雪対策で高齢者家庭や空家の雪下ろしや除雪が大きな問題に、551

◆ 21. 生活

16. 01. 29 危険食品でも社会にばら撒けば危険度低下という誤魔化しを問う、647

16. 01. 07 ヒットアニメを題材にして原風景論議だが盛り上がり、634

15. 12. 29 消費者という言葉に違和感有、627

◆ 22. コミュニケーション

14. 12. 24、懇親会ときの会話の進め方を見る、550

14. 06. 27 国際シンポジウムや国際会議の国際とはを考える、494

14. 06. 22 意識の高い方々の語りの場をもっと設けるべし、490

◆ 22. コミュニケーション

16. 02. 11 コミュニケーションはスキルではなく姿勢が大事、658

◆ 23. 人間

15. 02. 14、コンピューターが人間の能力を越えたとき人間はどうする、586

◆ 23. 人間

16. 03. 23 人工知能は人間を超えられるか、人間の尊厳をどうしていくのか、693

16. 02. 28 女性の接待サービスも男尊女卑のあらわれか、671

16. 02. 10 人物ランキング考、657

16. 01. 31 ロボットが人間の仕事を奪ったとき人間は二極分化か、649

◆ 24. 健康

15. 02. 20、ストレス解消は環境づくりから、592

14. 05. 01 西洋合理主義の医学と和の医学について(続)、胸痛、457

14. 04. 30 西洋合理主義の医学と和の医学について、腰痛、456

◆ 25. 子供

14. 11. 05、子どもの自然体験を論ずる、522

14. 06. 13 保育士へ子どもの遊び方をアドバイスするボランティア、両者の思いは、482

◆ 25. 子ども

16. 03. 30 コラボや協働で自己主張と相互尊重を、子ども問題から、699

16. 02. 20 駄菓子にも安全性を、666

◆ 26. 若者

15. 02. 25、昔はユースホステル全盛、今なぜ振るわず、596

14. 07. 03 若者中心の勉強会で聴衆に専門家がいても若者本位の深い議論で盛り上がる、500

14. 06. 05 二枚目の名刺、474

14. 04. 22 若い方々の街づくり談義を整理すると、451

◆ 27. スポーツ

14. 06. 26 ワールドカップの過剰期待と加熱報道の背後には何がある、493

◆ 27. スポーツ

16. 01. 19 駅伝で素晴らしい走りと余裕の走りが見たいです、639

◆ 28. 飲食

14. 11. 15、ソーメンのあれこれ、美味しさはどこから、527

◆ そのほか

15. 03. 31 雪ん子のブログの総目次、2014年度(4. 1-3. 31)、雪ん子

16. 03. 31 雪ん子のブログの総目次、2015年度(4. 1-3. 31)、雪ん子 700